LGBTQ+ 卒業生たちのライフストーリー集
「発刊にあたって」

武田　丈

私が高校生の頃、「とんねるずのみなさんのおかげです」という人気番組で、男性同性愛者を笑いの対象とする保毛尾田保毛男（ほもおだほもお）というキャラクターが登場するコントがありました。このコントを再演した 2017 年の「とんねるずのみなさんのおかげでした 20 周年記念 SP」が多くの批判を受けたので、知っている方たちも多いかもしれません。私が高校生だった 1980 年代にはもちろん LGBT という言葉もなかったし、LGBTQ+ の人たちへの差別や偏見が人権問題として取り上げられることもほとんどありませんでした。私自身、当時 SOGI に関する知識は全くなく、このコントを見て大笑いしていましたし、男性同性愛者を自分とは相容れない人たちだと思っていました。

こうした自分の考えが間違っていたことに気づいたのは、関学卒業後にアメリカの大学院に留学しているときでした。私の専門がソーシャルワークということもありクラスメイトに LGBTQ+ の人たちがいたり、大学内の LGBTQ+ のサークルの活動を目の当たりにしたり、さらに個人的にはゲイのカップルに大変お世話になる経験をしたことで、自分が日本にいたときにいかに無知だったかを痛感するとともに、なんとひどい偏見をもっていたかということを非常に反省しました。なので、2000 年に関学に教員として戻ってきた際に、学生たちに自分と同じような失敗を犯してほしくないという思いから、総合コース「ヒューマン・セクシュアリティ：性の常識を問い直す」（現在の人権教育科目「セクシュアリティと人権」）という授業を立ち上げました。

関西学院大学では、この授業以外にも毎年春と秋に開催している人権問題講演会のなかで 2005 年以降毎年のように SOGI をテーマとした講演会

を開催してきました。こうした授業や講演会でLGBTQ+の講師の方に来ていただくことは、SOGIに対する関心を高める一定の効果はあったと思います。大学教員が講師をつとめるときよりも学生は真剣に受講しているし、直接の言葉は学生たちの心を揺さぶるものがあります。しかし、時としてこうした学外の講師の方の話は、自分たちのコミュニティや生活とは直接関係ない出来事として理解されてしまうこともありました。こうして2013年度から毎年開催するにようになったのが、キャンパスの中の多様性、特にセクシュアリティの多様性を啓発する関学レインボーウィークです。LGBTQ+ではなくSOGI、つまりセクシュアリティはすべての人にとっての事柄であり、キャンパスの中でいきづらさを突き付けられている人、意図するかしないかにかかわらずいきづらさを突き付けている人がいるということを知ってもらうとともに、そうしたキャンパスの風土や制度を変えるように訴えかけていくことを目的にしています。

この関学レインボーウィークでは、毎年LGBTQ+の学生たちが自分たちのキャンパスでの体験を語ってくれるパネルディスカッションを開催してきました。キャンパスの中でいきづらさを突き付けられた経験、その対処方法、仲間とつながる重要性などを毎年赤裸々に語ってくれており、関西学院の構成員の一人として自分の考えの至らなさや、いかに自分の中に男女2項対立の考えが刷り込まれているかを考えさせられます。こうしたLGBTQ+の学生や卒業生たちが、このキャンパスでどんな体験をし、どのように就活を行い、現在社会でどのような生活を送っているのかを、多くの人に知ってほしいという想いから刊行されたのが本書です。

関西学院は2020年4月に「インクルーシブコミュニティ実現のための基本方針と行動指針」（https://www.kwansei.ac.jp/kikaku/kikaku_003750.html）を発表しました。この行動指針がキャンパス内で実践され、関西学院が完全なインクルーシブコミュニティとなれば本書は不要となるでしょう。近い将来そうなることを心より願っています。